

ドクモスカウト2011募集要項

- 内容：2011年度の「つり情報」読者モデルをオーディション形式により決定し、釣りファンの拡大と女性アングラー育成のお手伝いをさせていただきます。
- 応募条件：自薦他薦を問わず、18歳以上35歳未満の釣り好き女性に限りです。
- 選考方法：毎月1名、書類審査通過者に取材釣行していただき、つり情報発行人、ドクモスカウト事務局、カメラマン、船長の4人により基礎点を採点。12名の女性アングラーがそろったところで、最終審査として全員で仕立船釣行し、グランプリを選出します。
- 応募方法：WEBからの応募は、つり情報 WEBサイトにある「ドクモスカウト2011」のページから。



ケータイからの応募はコチラ→

さらに詳しく… つり情報

検索



▲乗り泳りにはブランコ仕掛けが有効だ
▲それでも各自、お土産には十分なようだ



▲潮具合が悪く乗りは
今一つだった



「イカ釣りにてとても楽しいです」と菊池さん。ひよっとしてこの日、大釣りに恵まれたらイカ釣りにハマっていったに違いないと思うスタッフだった。

♥気合を入れて釣行したのに、思った以上に釣れず、情けないばかりです。とくにイカ釣りは慣れるまでパニック状態でしたが、仲乗りさんに教えていただき自分なりに楽しむことができました。この経験を生かして、イカ釣りのプロを目指します(笑)

希香の感想

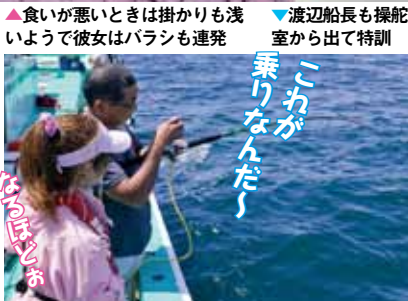


♥よく見れば、おニューのウエアがイカ墨で真っ黒

初めて見たわっしの
イカに大きいの



「イカ釣りにてとても楽しいです」と菊池さん。ひよっとしてこの日、大釣りに恵まれたらイカ釣りにハマっていったに違いないと思うスタッフだった。



▲食いが悪いときは掛かりも浅いようで彼女はバラシも連発
▼渡辺船長も操舵室から出て特訓
「こたが乗りなんだ」
「おはっ」



♥初めてのイカ釣りに気合を入れて出かけたけれど……

おいしそ〜！
船上キ〜してっ！



得意な釣りの心算



▲まずはアジ釣りからスタート
▼アジは各自数尾に終わった

前々号で紹介したとおり今年度の「ドクモスカウト」は4名のグランプリが決定、好評のまま2年目に入りました。新たに募集も開始しましたので、興味のある方は左ページをご参照のうえ応募ください。
さて、2年目の最初に登場いただくのは菊池希香さん。まだ



●初めて船に乗ったのは中学生の時ですが、本格的な釣り歴は3年くらい。主に外房方面でアジ、ハナダイ、ヒラメなどをこなしてきましたが、イカ釣りだけは未経験。今回、初めてイカ釣りができると聞いてとても楽しみにしています。

女性読者モデルオーディション
ドクモスカウト
DOKUMO
2011



参加者
大募集

第1次審査 vol.1
南房江見沖の
アジ&スルメイカ
南房江見太夫崎港
渡辺丸

写真◎井坂英樹 文◎本誌編集部



Firstチャレンジャー
♥菊池 希香さん
きくち のぞか
プロフィール

- 1985年7月生まれ 24歳
- 千葉県松戸市在住
- 職業 専業主婦
- 趣味 釣り、キャンプ、旅行など

渡辺丸船長の目 Captain

(テクニック中心に20点満点で採点)
渡辺 英雄船長
15点 ●イカ釣りは釣れなくてもシャクリ続けることが大切。女性好きなのでよくがんばりました。

総合得点
Score **69**点
※この点が一次審査の持ち点になります
100点満点

採点者の目 Marker

カメラ担当
井坂 英樹
12点 (ビジュアル中心に20点満点で採点)
評価 ●小柄でピンクが似合う妹タイプの彼女。終始笑顔で釣り続ける彼女はとてもレンズを向けやすかった。

A: 情熱度…釣り全般に対する情熱
B: 上達度…実際に体験した釣りのもの、取材当日の上達度
C: 知識度…釣りに関する経験、知識
D: センス…釣りのセンス
E: お騒がせ度…船の中でムードメーカーであったか、元気だったか
F: 釣果…船中の釣果に対して平均か否か

A~Fの項目 30点満点で採点

A:5 B:3 C:3 D:4 E:3 F:2

ドクモスカウト事務局代表
徳永 隆也 20点
評価 ●子育ての最中という彼女、ご主人と一緒に釣りをするのが楽しみというラブラブぶり。あまり状況のよくない日にあたってしまったのが残念。あの細い体で150号のオモリを背負った仕掛けをシャクリ続けたバタイリテに脱帽です。

A~Fの項目 30点満点で採点

A:5 B:4 C:3 D:4 E:3 F:3

つり情報代表 本誌発行人
根岸 伸之 22点
評価 ●外房の釣りに慣れていないせいか、まずは船に強いことに感心。アジもスルメイカも潮具合が悪く釣果は今一つ。楽しそうにシャクリていたのを見て、釣らせてあげたいと正直、思いました。

「待ってました」とばかりに菊池さん、勇んで投入するも初めての仕掛けにとまどうばかり。仲乗りさんがマンツーマンで指導し、ようやく1杯目を釣り上げたときには、これまでにないうれしそうな表情をみせてくれた。しかし、ここでも二枚潮がひどくて乗船者は苦戦。終盤になってようやく潮況が回復し、いつものスルメイカ釣りに戻ったのだ。

菊池さんといえば沖揚がり前には、ツノの扱いやシャクリもほぼ一人前。ただ選んだ仕掛けがまずかったか釣り座に恵まれなかったか釣果はのびず、それでも「イカ釣りにてとても楽しいです」と菊池さん。ひよっとしてこの日、大釣りに恵まれたらイカ釣りにハマっていったに違いないと思うスタッフだった。

小雨のバラつく中、4時に出版。まずは江見沖でフラッシュイサビキを使っておアジ釣り。いつもは仕掛けを下ろせばガツガツと掛かってくるのだが、この日は前日までのシケで水温が急降下、加えてひどい二枚潮でオマツリの連続。各自が数尾釣ったところで早ばやとスルメイカ釣りに変更。

20代の前半でありながら2人のお子様を抱えるヤンママさんだ。中学生のころから船釣りを経験し、本格的に始めたのは現在のご主人と結婚されたから。どうやら船釣りがお二人の縁結びとなったようである。

今回乗船したのは南房江見太夫崎港の渡辺丸、アジとスルメイカのリリース釣りというメニュー。菊池さんはアジはともかく、イカ釣り未経験でも楽しみにしていたという。